

R6. 4. 22 第 1 回富山県人口未来構想本部会議 議事概要

■知事政策局長

- ・ 今年度、新たな子育て少子化対策の基本計画の策定を進めている。部局連携で対策を協議していきたい。
- ・ 成長戦略会議では、今年度、県の人口未来戦略をテーマに外部の有識者の皆様から様々なご意見、ご提言をいただくことにしている。実効性のある対策につなげるよう、この人口未来構想本部の場などを通じて、随時報告・共有したい。

■交通政策局長

- ・ 人口減少等を背景に地域交通の経営環境は厳しさを増しており、事業者単独ではサービスの向上に取り組むことが、なかなか難しい状況。
- ・ 2月に富山県地域交通戦略を策定し、地域交通サービスを公共サービスと位置づけ、自治体・県民の役割を自らの地域に対する投資・参画へと、大きく舵を切った。
- ・ 人口減少社会においても、持続可能な公共交通を確保するため、関係者と連携し、戦略に位置付けた施策をはじめ、取組みを進めたい。

■ 警察本部長

- ・ 警察署の再編を進めているが、縮小でなくより警察力が高度化できるようにしていきたい。
- ・ 縦割りにならずに対応できる治安対策プロジェクトチームや、30～40代の若手の将来の働き方を考えるワーキンググループを立ち上げた。
- ・ 科学技術の活用も不可欠。また、地域愛や郷土愛につながる取組みやボランティア活動とか外国人の方も含めて地域の支えの場になるような活動も進めたい。
- ・ 課題の解決には、構想が部局単位とか係単位だといくら行動をマックスにしても限界がある。警察としてもいろいろな部局と連携して進めていきたい。

■ 土木部長

- ・ 県内のインフラの多くは高度経済成長期以降に整備され、今後、老朽化が進むとともに、メンテナンス費用も増加が見込まれる。
- ・ 未来の人口を見据え、インフラストックの適正化にも配慮していかなければならない。修繕費用の平準化や維持管理の効率化を図っていく必要がある。
- ・ 近年、国では、インフラを「群」と捉えてマネジメントする取組みが始まっていると伺っている。こうした取組みも注視しながら持続可能なメンテナンスサイクルの構築を図っていく必要がある。

■ 会計管理者

- ・ 労働力不足に対応するため、県庁内だけでなく公金事務にかかる県民、事業者、

金融機関の事務の効率化による労働生産性の向上が重要と考えている。

- ・ 例えば、地方税ポータルシステムを税外収入にも活用することを国に要望し、遅くとも令和8年9月までに活用を開始する方針が示された。全国で共同利用できる仕組みを国が構築すれば、自治体のDX等効率化も進み、労働生産性向上につながる。
- ・ このような取組みが他にもできないか知恵を出したい。

■ 企業局長

- ・ これまでも再生可能エネルギー導入の拡大、脱炭素化の取組みを進めてきた。
また、多子世帯の電気料金を支援する「とやまっ子すくすく電気」や県内投資や県内移住者の割引を行う「とやま未来創生でんき」を小売事業者とともに実施。
- ・ 今後、人口未来構想を念頭に、さらに地域社会の要請に応え、他部局とも連携して、地域貢献につながる電力供給形態を検討したい。

■ 教育長

- ・ 富山県で就職してもらい、ふるさと富山に誇りと愛着をもって、将来、県外大学進学後も帰って来て県内で活動できる人材となるようキャリア教育、ふるさと教育に取り組んでいく必要がある。
- ・ 県内の教員は8,500人で、労働人口の2%弱という一大労働市場。より魅力のあるものとなるよう、働き方改革などに取り組んでいきたい。
- ・ 学校現場は子どもを含めると10万人の県民がいる。そういう現場がいきいきと活力のあるものとなり、それが県の活力につながるという風に考えていきたい。

■ 農林水産部長

- ・ 生産現場では人手不足が深刻化。特に農業では、集落営農の後継者不足により、このままでは継続が難しいという声も聞いており、とやま農業未来カレッジの拡充のほか、集落営農組織の広域連携を促進する事業に取り組みたい。
- ・ 省力化や生産性向上の観点から、例えば、スマート農機やデータ活用型農業、農業のDXを推進したい。
- ・ 農山漁村には受け継がれてきた文化、自然、食などの魅力がある。交流組織の活性化、情報発信など交流人口の拡大に努めていきたい。

■ 商工労働部長

- ・ 人口未来構想と同時に県産業振興上の重要な課題として、今後三つの切り口で取り組みの大胆な強化を図ってまいりたい。
- ・ 第一に、新産業の創出と人材育成確保。県内企業の新たな成長と働く場としての魅力向上を支援したい。あわせてスタートアップを支援したい。
- ・ 第二に、成長企業の誘致。成長力のある企業を、今後いっそう積極的かつ戦略的

に県内に取り込みたい。

- ・ 第三に、外からの人材を受け入れるための体制整備。UIJ ターン就職の促進や外国人材の受入れ支援などを通じ多様な人々をひきつける環境づくりを進める。

■ 厚生部長

- ・ 医療福祉の人材不足は、支え手を増やす方向で言われることが多いが、ほかの職種との関係もあるので、ひたすら増やすという事はもう目指せない。サービスの形や機会のありようについて考えなければいけないと思っている。
- ・ 限りある資源でどのようなサービス提供の形を作っていくか、提供側だけではなく受け手側も一緒に検討して作り上げていく必要がある。
- ・ 医療福祉の従事者は、プロフェッショナルとして成長を求める気持ちが強い。成長でき働き甲斐のある職場環境を整える事を考えていかなければいけない。
- ・ 進学する人、就職する人に選んでもらえる医療福祉現場づくりが必要と思う。

■ こども家庭支援監

- ・ 出生数は全国的に減少し、本県では 1970 年をピークに減少し、昨年の出生数はピーク時の 3 分の 1 以下までに減少している状況。
- ・ 子育て中の方々の声を大切にしてこどもや子育てを温かく見守っていく、社会全体の意識、雰囲気をもっと醸成していくことが必要。
- ・ 国や市町村との連携はもとより、地域の方々や地域の企業、民間団体と協働して、こどもや子育て家庭に寄り添ったきめ細かな施策の推進が重要と考えている。

■ 生活環境文化部長

- ・ 人口変動にみる課題という意味では、生活関係・自然環境の保全など、むしろ人口増加の件で問題が顕在化することが多かった。
- ・ 今後は、本県の優れた生活環境、自然環境の保全、スポーツや文化芸術の振興、また多文化共生の環境に関わる対策を進め、県内に生まれた方々が本県を離れたくない、もしくは戻りたい、また他県や他の国から移り住みたいと思っていただけるような環境を作ることで人口減少問題に貢献したい。

■ 危機管理局部長

- ・ 能登半島地震のような大規模災害では公助だけでは限界があり、共助の取組みが重要。しかしながら、消防団の団員数が年々減少し地域防災を担う人材不足が懸念。
- ・ 他方、今回の震災では、中山間地域において、自立型の生活様式や住民どうしが助け合うことで災害を逞しく乗り切った集落もある。
- ・ 地域の防災を担う消防団員の確保、防災人材の育成、共助の取組みの推進など人口減少社会における安全安心な富山県の実現を目指したい。

- ・ 人口減少問題は、今後何を残して何をやめるのかといった選択を迫られる問題。これからの時代を生きる20～30代の若い世代が議論できる場の設置を提案したい。

■ 経営管理部長

- ・ 県で実施すること、市町村と一緒にやって対応していくこと、国へ要望することなどあると思う。経営管理部としてもしっかり後押しをしていきたい。
- ・ 今年3月に人材育成・確保基本方針を定めた。多様な人材を受け入れて組織力を強化していくための不断の努力と工夫をしていきたい。
- ・ 人口未来構想の事業化について、サンドボックス予算などを活用しながら情報収集や調整をお願いしたい。職員の挑戦を応援する事業提案を募集中。人口未来構想の視点の提案も出てきたらと期待。こういった挑戦をぜひ応援していただきたい。
- ・ 国に対し、人口減少という視点で、要望すべき事がないか検討いただきたい。

■ 佐藤副知事

- ・ 部局横断は非常に重要。みなさんと前向きに議論をしながら取り組んでいきたい。
- ・ 人口減少は新しい課題ではなく、従前から日本全体の社会課題として認識されてきた。特にこれから予想以上のスピードで展開していく。そういう中でも、過度に恐れることなく、前向きに新しい施策を展開できる好機につなげていく事が重要。
- ・ ウェルビーイングの向上は、人口減少への対応にもメリットがあるはずで、この分野において富山県が先進地域となれるよう力を合わせて取り組んでまいりたい。

■ 蔵堀副知事

- ・ 富山県も国も市町村も、少子化対策や子育て支援に取り組んできたが、成果が上がっていないというのが現状。
- ・ 県民のみなさんに現状を良く理解していただき、市町村、県、国が何をやっているか、そこを県民のみなさんにも支援していただく事が必要。
- ・ 社会全体がこどもに優しいかというとなかなかまだそうならない気がしており、県として取り組むべき課題。
- ・ 外国人材の受入れも、社会全体としてどう考えてどのように受け入れていくか、そういう事が今後の大きな課題。

■ 地方創生局長

- ・ 地方創生局は、移住政策や、関係人口としての観光施策、地域の活性化、ふるさとに対する誇りの醸成や賑わいの創出など、広く担当。
- ・ 各部局の取組みと被る範囲もあり、むしろ地方創生局だけで完結する話などはないと思っている。人口の未来を考えていくにあたって一緒に進めていきたい。

■ 新田知事

- ・ 各局部長から力強い決意表明を聞いて、大変心強く思っている。
- ・ 人口減少問題については、過去の先輩方もいろんなことをやってこられたが、このトレンドは止まっていない。決して我々が今から取り組もうということは簡単な道ではない。
- ・ 「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～」を目指すことを政策の真ん中に掲げている。このウェルビーイング向上自体は中長期的には人口減少問題にも必ずや効いてくることだと思う。それだけではブレイクスルーできないところにきており、成長戦略会議でもこ人口問題について話し合っていく。
- ・ 人口 100 万人を切るという事自体は我々のビジョンでも想定しており、あくまで一つの通過点。決して浮き足だつ必要は無いが、甘んじて受ける気持ちも無い。
- ・ 大胆な発想で、この会議や成長戦略会議で、キャッチボールしながら重点的に取り組んでいきたい。